

平成28年度第1回 鹿児島県特定鳥獣保護管理検討委員会並びヤクシカWG合同会議における各委員からの意見及び指摘事項と回答

項目		委員意見等	関係機関	回答	備考
ヤクシカ被害について		捕獲の場合には、個体数管理を考えればメスを選択的に捕獲するべきと考える。ヤクシカ捕獲状況の表ではこの状況が分からないので、オス、メス別の捕獲頭数を記載して頂きたい。	林野庁、屋久島町	オス、メスの捕獲頭数につきましては、今後、提示して参りたい。	
		スレジカが増えたのか、シカ個体数が減ったのか、どう検討するのか、見通しはあるのか。	4行政機関	糞粒調査による密度調査及び植生被害調査等の結果並びに、委員等のご助言を踏まえて対応を考えて参りたい。	
各関係機関の取組について		糞粒法の調査方法は、統一して行っているのか。	環境省、林野庁、県	糞粒調査は、調査箇所の延長やコドラートの数に若干の違いはありますが、コドラートの大きさ実施時期は統一している。	
		捕獲個体の処理としては、地元の合意が必要となるが、コストを考えると発酵減量法がある。もう一つは、指定管理の中で現場放置もある。	4行政機関	捕獲個体の処理は、大きな課題であり、ご助言を頂きながら関係機関において引き続き慎重に検討して参りたい。	
		河川界区分ごとのシュミレーションでは、最新データを取り入れた予測をおこない、数値を見直して行く必要がある。	4行政機関	各機関のデータを共有し、分析方法等について助言を頂きながら最新のデータにより整理して参りたい。	
		第二種特定鳥獣管理計画の中で、捕獲手法の実証等実現可能なので取り組んでほしい。	環境省、林野庁、県	各機関で調整を図り、捕獲実施と併せて捕獲手法実証の実施について調整して参りたい。	
		第二種特定鳥獣管理計画では、遺産地域以外の貴重な植生地の保護について目標に入れて頂きたい。	4行政機関	特定鳥獣保護管理検討委員及びヤクシカWG委員の助言を頂きながら関係機関で慎重に検討して参りたい。	